

掲載号	8 月 2 週号	
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター
	職名及び氏名	上席研究員 押田正義
題名	「なつしずく」の成熟特性と落果防止対策	
備考	【表説明】 表 「なつしずく」の収穫時期別の果実品質及びみつ症の発生率（平成22年） 図 満開後124日における表面色別みつ症発生率	

【本文】

「なつしずく」は（独）農研機構果樹研究所が育成した早生の青ナシです。「幸水」より約1週間早い8月上中旬に収穫できることから、本県においても導入が検討されています。しかし、本品種は生理障害（みつ症）や収穫前に果実が落果する後期落果が発生します。そこで、「なつしずく」の収穫適期やみつ症の発生程度などの成熟特性を明らかにするとともに、後期落果の防止対策について試験を行いました。

満開後108日の7月31日から3～4日おきに果実を収穫し、果実品質及びみつ症の発生率を調査しました。その結果、収穫適期は果実が急速に肥大し、硬度5.5ポンド未満、糖度13.5以上になる満開後115～120日頃と考えられました（表）。その時の「二十世紀」用カラーチャートにおける表面色が2.0程度であること、みつ症は収穫後期に表面色3.5以上の果実で発生したこと（図）から、収穫は表面色2.0～3.0で行うのが適当と考えられました。なお、表面色と食味評価との間に一定の関係は認められませんでした（データ省略）。

後期落果の防止対策として、ストッポール液剤（落果防止剤）の効果を調査しました。後期落果は8月上旬から発生し、収穫適期頃に急増します。そこで、ストッポール液剤2,000倍液を満開後99日の7月22日に樹全体に散布したところ、満開後136日（8月28日）までの累積落果率は1.6%と、無処理区の69.6%に対し落果を大幅に軽減できました（データ省略）。

以上から、「なつしずく」の収穫は満開後115～120日頃から、果実の表面色2.0～3.0で行うことが適当と考えられます。しかし、この頃から落果が急増するため、収穫開始予定日の14～7日前までにストッポール液剤を散布するとよいでしょう。なお、ストッポール液剤の使用に当たっては、使用基準を遵守しましょう。

表「なつしずく」の収穫時期別の果実品質及びみつ症発生率（平成22年）

収穫日 (月/日)	満開後 日数 (日)	1果 平均重 (g)	表面色	地色	果実品質		みつ症 発生率 (%)
					硬度 (lbs.)	糖度 (Brix)	
7/31	108	274	1.2	1.2	6.4	12.3	0
8/3	111	297	1.6	1.7	5.7	13.0	0
8/6	114	306	1.4	1.7	5.3	13.3	0
8/9	117	310	1.6	1.7	5.4	13.5	0
8/12	120	361	2.5	2.5	5.2	13.8	0
8/16	124	393	3.0	3.0	5.0	14.5	17

注)表面色は「二十世紀」用カラーチャートを用いて調査した

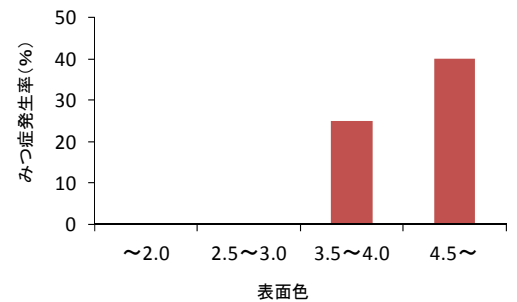


図 満開後124日における表面色別みつ症発生率